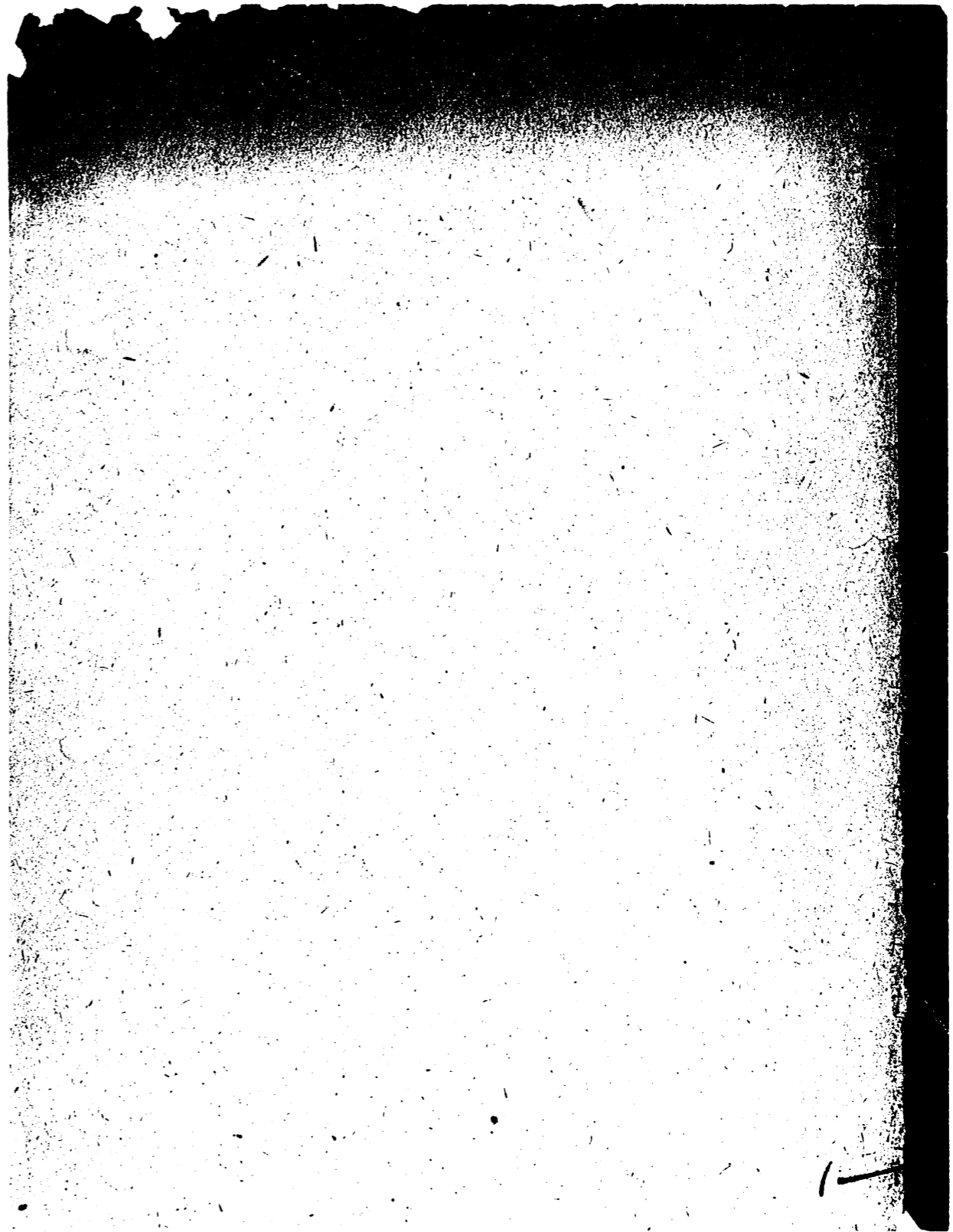


Vertical Japanese text on the left edge of the document, including characters like 東洋, 南洋, and 北洋.

REEL No. A-1218





REEL No. A-1218

0099

アジア歴史資料センター

十月十六日

田中参事官室 江村参事官

三宅調一課長殿

昨日借用致シマシ「第二次世界大戦ニ於ケル東印度  
ノ統治及帰属決定ニ関スル経緯」ト題スル調査書  
有難ク申込却致シマス。関係各課トニ相談ノ統  
案、IPSへ提出スルニ付、致シマシソカヤ辭了承  
ヒマス。

外務省

S 1.7.0.0 - 56

27

極秘

第二次世界大戦中ニ於ケル南印度ノ統治及歸屬決定ニ關スル経緯

第二次世界大戦勃發前南印ヲ含ム南方占領地域ノ統治歸屬ノ問題ハ統帥部及政府内部ニ於テ種々研究サルルトコロアリタルモ外務省ハ當初ヨリ南印獨立ヲ重要視セリ南印上陸作戰開始直前南方軍總司令部ハ作戰及占領後ノ施政ヲ容易ナラシメンガ爲メ「イゴン」及「メンコック」ノ「ラジオ」ヲ利用シ「インドネシヤ」民族自立ノ宣傳ヲ行ヒタルガ同時期ニ於テ、和蘭ハ流刑中ナリシ「インドネシヤ」民族運動指導者「スカル」及「ハッタ」ノ兩氏ヲ「シヤム」へ送還シ右ニ對シテ「インドネシヤ」國民軍ヲ組織シテ日本軍ニ抵抗スヘキコトヲ煽惑シ其代價トシテ南印度地域ニ獨立ヲ許容スヘシトナシタルモ兩氏ハ之ヲ拒絶セル経緯アリタルモノ如シ日本軍ノ南印占領後現地軍當局ハ後ニ獨立聲明ノ行ヘタル「ビルマ」「フィリピン」ニ於ケルト同

外務省

機之等民族主義者ヲ先頭ニ立テ「シヤム」奉公會其他現住民ノ對目協力組織ヲ設立セシムルト共ニ民族主義的傾向ヲ強化スルカ如キ方向へ施政ヲ推進スルトコロアリタルガ當時「シンガポール」ニ在リタル南方軍總司令部ハ送ニ之ニ押壓セントスルノ方針ヲ持シ中央ニ於テモ亦戰時進行ノ爲メ資源獲得ニハ之ヲ直轄領トシテ徹底セル政策ヲ採用スルノ外ナク獨立許容等ノ民族解放政策ハ之ヲ阻害スヘシトノ理由ニテ統帥部ハ南印度獨立ニ強硬ナル反對ヲ主張セリ其結果昭和十八年一月四日大本營政府連絡會議決定占領地歸屬腹案ハ「ビルマ」「フィリピン」ノミノ獨立ヲ規定シ其他ニ關シテハ速ニ決定ムトナシタルガ次年四月五月三十一日御前會議決定ハ東印度地域ヲ帝國領土ヘ編入スヘキコトヲ決定シ現住民ノ民族ニ應ジテ政治參與ヲ認ムルカ如キ方針ヲ取ルト共ニ聯合國側宣傳ニ乘セラレザル様本國會議決定ヲ發表セザル事トセリ。本決定ニ關シテ軍機總理大臣ハ專ニ獨立論ニ

外務省

領事居り外務省又獨立案ヲ主張セルガ統帥部へ前送ノ如ク覆ナ  
ル反對論ヲ持シ又一部ニハ一度獨立ヲ許容セバ帝國トシテハ信  
義トシテ敢テ越之ヲ尊重セザルヲ得ズ將來交渉平和等考慮サル  
ル場合困難ナル地位ニ立ツヘキヲ以テ現狀ノ儘ヲ可トスヘシト  
ノ見解モアリテ遂ニ領土編入ノ決定ヲ見タル次第ナリ

三、本決定ニ對シ現地軍當局へ頗ル不滿ナリシモ積極的ニ反對意見  
ヲ具申スルニ至ラズ又大東亞會議直後來訪セル「セシル」氏  
ハ南條總理大臣ニ對シ南印度地域ニ對スル獨立許容ヲ懇請セ  
ルモ南條總理大臣ハ何等確答ヲ與フルコトナクシテ會見ヲ終リ  
タルヲ以テ「スカル」氏ハ多大ノ失望ヲ拘キ「ジャバ」へ歸  
還セリ其後「ジャバ」軍政最高顧問タリシ林副政長官ハ現地軍  
最高指揮官トノ職解ノ下ニ上京シ南印度獨立論ヲ持シテ關係方  
面ノ説得ニ努ムルトコロアリ重光外務大臣ハ之ヲ支持シテ前記  
決定變更ノ努力ヲナシタルガ「小磯内閣成立ト共ニ南印度獨立

外務省

論ハ漸有力化スルニ至レリ

即小磯内閣最初ノ戰爭指導會議ニ於テ「今後採ルヘキ戰爭指導  
ノ方針」中ノ一項ニ於テ次期議會ニ於テ南印度獨立ニ關スル聲  
明ヲナスコトニ決定ヲ見ルカ其ノ経緯ヲ見ルニ當時太平洋正面  
ニ於テハ「マリヤナ」ノ防禦線崩壊シテ米國ノ攻勢急進化シツ  
テアリタル際ニシテ新内閣トシテハ大東亞結集上何等カ新ナル  
政略上ノ手ヲ打タサルヲ得ザル情勢ニアリタル次第ニシテ外務  
省カ獨立論ヲ主張セルハ云フ迄モナキトコロナルガ陸軍中央モ  
亦陸軍軍政地域タリシ「ジャワ」「スマトラ」ニ於ケル民族意  
識ノ昂揚著シキモノアリ獨立問題ヲ不明確ナル情態ニ放置シツ  
テ原住民ノ協力ヲ確保スルコト漸時困難トナリ居ルヲ以テ現地  
軍當局ノ要請ヲ容レ獨立論ニ賛意ヲ表スルニ至レリ。然レ其海  
軍側ハ依然トシテ強硬ナル反對意見ヲ持シ獨立論策ノ押進ニ對  
シ海軍軍政地域)ニ關スル限り全面的關係ヲナシタルヲ以テ

外務省

附屬一) 單ニ聯合ニ於テ小規模總理事大臣ヨリ將來東印度地域  
 ノ獨立ニ關シ支授ヲナスヘキ旨ノ聲明行ハレタルニ止リ(附屬  
 二) 獨立ニ關スル何等具體的方策ノ決定ヲ見ルニ至ラス  
 三) 其後戰局ハ更ニ惡化シ南方地域トノ海上交通ハ事實上杜絶  
 ナリタルヲ以テ現地ニ於ケル軍自活ノ爲ノ經濟的要求ハ増大シ  
 「ジャバ」 「スマトラ」ニ於テハ抽象的ナル獨立聲明ノミヲ以  
 ナシテハ原住民ノ人心把握ハ著シク困難トナレリ現地軍當局ハ  
 發ニ原住民政治參與ノ方針ニ基キ「ジャバ」ニ中央參議院ヲ設  
 置セルモ右ハ單ナル施政ニ對スル諮問機關タルニ過キザリシヲ  
 以テ獨立準備ノ爲ノ具體的方策ノ決定ハ焦眉ノ問題トナレリ  
 他方海軍側モ「フィリピン」失陥後ハ南方放棄ハ既ニ事實化シ  
 來リタルヲ以テ從來ノ反對論ヲ固持スルノ理由ヲ喪失シ昭和二  
 十年初頭ヨリ東印度獨立問題ニ關スル外陸海ノ主張ハ漸次  
 統一セラルルニ至レリ依テ三省關係官ノ間ニ付次ノ討議ヲ經タ

外務省

ル結果七月十七日最高指導會議ニ於テ「帝國ハ可及的速カニ南  
 印度ノ獨立ヲ容認スルカ爲直チニ獨立準備ヲ促進強化スルモノ  
 トス」トノ決定ヲ見タルモ(附屬三) 及(附屬四) 其後一ヶ月  
 弱ニシテ帝國ノ降伏トナリタルヲ以テ之カ實施ヲ見スレテ終レ

外務省

附屬一 昭和一九、九、二  
 東印度獨立施策ニ關スル件 (關係省主務者案)

一、方針  
 將來東印度ヲ獨立セシムル旨ヲ聲明シ以テ民心把握ニ資スルト  
 共ニ大東亞政策ヲ中外ニ闡明ス

二、要領  
 1. 將來東印度ヲ獨立セシムベキ旨臨時議會ニ於テ聲明ス  
 2. 獨立セシムベキ地域ハ舊屬領印度(「ニューギニア」ヲ除ク  
 ト豫定ス(海軍留保))  
 3. 獨立ノ形態及帝國トノ關係ハ別ニ定ム  
 但シ帝國ノ要請ヲ十分達成スル如ク措置ス  
 4. 獨立ノ時期ハ住民ノ政治能力向上ノ狀況等ヲ勘案シ別ニ定ム  
 ルモ過早ナル獨立實施ハ之ヲ避ク  
 尙全地域ヲ同時ニ獨立セシムベキヲ逐次獨立セシムベキヤハ

外務省

S 1.7.0.0-56

34

當時ノ狀況ニ依リ之ヲ定ム  
 5. 「ジャワ」ニ於テハ住民ノ朝意ヲ尊重シツツ左記ニ準據シテ  
 措置ス

イ、帝國政府ノ聲明ニ即應シ速ニ之ガ趣旨ノ徹底ヲ圖ル  
 ロ、軍政ノ現状ハ急激ナヲ變化ヲ避ケルモ住民ノ政治參與ヲ  
 更ニ強化擴大シ且テ其ノ政治的訓練ヲ行フ  
 ハ、處ルベク速ニ現地住民ノ行フ獨立ニ必要ナル事項ノ調査  
 研究ヲ認ム

ニ、從來禁止シアル「インドネシヤ」歌及「インドネシヤ」  
 旗ノ使用ヲ許容ス

6. 他ノ各地域ハ其ノ實情ニ即應シ爲シ得ル限り前項ニ準ジタル  
 措置ヲ採ルモノトス(海軍、留保)

外務省

S 1.7.0.0-56

35

附屬二 總理大臣議會聲明  
次ニ東印度等ニ於キマシテハ、帝國ハ昨年原任民ノ念願ニ基キ、  
原任民ノ政治參與ニ關スル措置ヲ採ツテ參ツタノデアリマスルカ  
此ノ間此等各地ノ原任民ハ、克ク帝國ノ真意ヲ解シ、終始一貫、  
大東亞戰爭完遂ノ爲、多大ノ努力ヲ續ケテ參ツタノデアリマシテ  
現地軍政ニ對スル協力亦洵ニ見ルベキモノガアリマス。此ノ實狀  
ニ鑑ミマシテ、帝國ハ東印度民族水遠ノ福祉ヲ確保スル爲、獨立  
ノ準備ヲ進メ、將來其ノ獨立ヲ認メントスルモノナルコトヲ、茲  
ニ聲明スルモノデアリマス。

S 1.7.0.0 - 56

36

「東印度獨立措置ニ關スル件」外務大臣説明資料

昭和二十年七月十七日

一、東印度ニ於テハ蘭領時代ヨリ熾烈ナル獨立運動アリ、「イン  
ドネシヤ」人ノ爲ノ「インドネシア」ハ彼等獨立運動者ノ熱烈  
ナル要望ナル處、大東亞戰爭勃發シ我軍ノ東印度截定成ルヤ之  
等先覺者ハ何レモ獨立ノ好機至レリトノ期待ノ下ニ我方ニ全面  
的協力ヲ爲シ、或ハ中央參議院議員トシテ、或ハ各洲地方機關  
ノ官吏又ハ議員トシテ、活動シ其ノ成果見ル可キモノアリ、他  
面一昨年十一月大東亞共同宣言ノ發出アリ、大東亞各國ノ自主  
獨立ヲ尊重スル帝國ノ大方針宣明セラレ、同時ニ「ビルマ」、  
「フィリピン」ノ獨立、目出印度假政府ノ成立アルヤ、東印度  
ニ於テモ獨立運動者ノ希望ハ一層促進セラレタル次第ナルカ、  
帝國トシテモ大東亞宣言ノ趣旨ヲ貫徹シ、又東印度住民ノ我方  
ニ對スル協力ト期待ニ報ユル爲ニモ、東印度ノ獨立問題ニ關シ

S 1.7.0.0 - 56

37



何等カノ意思表示ヲ爲スコト適當ト思料セラレルニ至レリ。依テ前内閣ニ於テハ客年九月五日最高戦争指導會議ニ付議シタル上、九月七日第八十五臨時議會ノ施政演說ニ於テ小磯前總理ヨリ、「帝國ハ東印度民族永久ノ福祉ヲ確保スル爲メニ將來其ノ獨立ヲ認メントスルモノナル」旨聲明シ、以テ本問題ニ對スル帝國ノ意圖ヲ明白ナラシメタリ。尤モ九月五日ノ最高戦争指導會議ニ於テハ右聲明ヲ議會ニ於テ爲スコトヲ決定セルノミニシテ、獨立ヲ許容スヘキ地域ニ關シテハ「ジャワ」及「スマトラ」ニ付テハ問題ナキモ爾餘ノ地域ニ付テハ明白ナル決定ヲ見ス、唯從來禁止シ居リタル「インドネシア」歐及「インドネシア」旗ノ使用ヲ許可シ、又住民ノ政治參與ヲ強化擴大シ、現地住民ヲシテ獨立ニ必要ナル事項ノ調査研究ヲ爲サシムルコトトナレリ。

二、右帝國政府ノ聲明ニ呼應シ、「ジャワ」ニ於テハ獨立調査委

員會設立セラレ、「スマトラ」「セレベス」等ノ地域ニ於テモ現地住民政治參與強化ノ措置カ執ラレ、所要ノ準備進歩中ナルカ、客年九月七日ノ聲明ニハ唯「將來其ノ獨立ヲ認メントスルモノナル」旨述ヘアルノミニテ其ノ時期ハ明示シアラサル處、獨立ヲ約束シ乍ラ之カ實現ヲ長ク不安定ノ儘放置スルコトハ帝國ノ誠意ニ付疑念ヲ起サシムルノ虞ナシトセス、殊ニ敵ノ反攻カ既ニ東印度ノ一角ニ及ヒツツアル今日現地住民ノ對日協力ヲ愈々積極化スル必要ヨリ云フモ、此ノ際客年ノ聲明ヲ更ニ具體化シ、獨立ノ時期ヲ明定シ之ヲ中外ニ發表シ、以テ大東亞自主完整ニ對スル帝國ノ眞摯ナル意圖ヲ宜明スルノ要アリ、故上ノ見地ヨリ今回別案ノ如キ決定ヲ爲サントスル次第ナリ。

三、次ニ決定案ニ付若干説明スヘシ。

(一) 要領一、ニ付  
東印度ノ民度ハ各地域ニ依リ一様ナラス、最モ民度高ク實質

上モ獨立ノ資格ヲ具備スルハ勿論「ジャワ」ニシテ爾餘ノ地  
 域ハ必スシモ直ニ獨立ノ資格ヲ有スルトハ認メ得サルモノ  
 リ、從テ此ノ際先ツ「ジャワ」ノミニ獨立ヲ許容シ爾他ノ地  
 域ハ更ニ其ノ實質ノ完備ヲ俟テ獨立セシムヘシトノ論モ  
 リ得ヘキ處、從來東印度ノ獨立ヲ首唱シ來レル所謂獨立運動  
 者ハ當ニ蘭領東印度ヲ一併トシテ考ヘ居リ之ヲ一併トシテ獨  
 立セシメント要望シツアルモノニシテ、此ノ際「ジャワ」  
 ノミヲ切離シテ獨立セシムルコトハ彼等ヲ失望セシメ折角ノ  
 效果ヲ半減スルノミナラス或ハ帝國カ爾餘ノ地域ニ付何等カ  
 野心アルニ非サヤトノ疑念ヲ生セシムルノ惧ナシトセス、依  
 テ此ノ際獨立セシムヘキ地域ハ舊蘭印全部ナル旨ヲ明ニスル  
 可トスル次第ナリ。又本項ハ獨立セシムヘキ地域ハ舊蘭印  
 ニシテ英領「マライ」及北「ボルネオ」ヲ含マサルコトヲ意  
 味スルモノナル處、之等地域ハ地理的ニハ舊蘭印ト近接スル

外務省

モ從來ノ歴史の傳統ニ於テハ全然別個ノ存在タリシモノニシ  
 テ之ヲ舊蘭印ト一括シテ獨立セシムルコトハ不適當且不必妥  
 ナリト思考シテ之ヲ除外セル次第ナリ。

(一) 要領二、ニ付

第一項ハ主要地域即チ「ジャワ」「スマトラ」等ノ獨立準備  
 完了セル際ハ獨立セシムヘキ地域トシテ定メラレタル舊蘭印  
 全地域ニ且リ新國家ノ獨立ヲ宣言セシムルコトヲ意味スルモ  
 ノナリ。或ハ準備完了セル地域ヨリ先ツ獨立セシメ、爾他ノ  
 地域ニ付テハ其ノ準備完了スルヲ俟テ逐次之ヲ新國家ニ參加  
 セシムル方法モ考ヘ得ヘキモ、右ノ如キ方法ハ前述舊蘭印全  
 部ヲ一併トシテ考フル所謂「インドネシア」獨立運動者ノ誤  
 解ヲ招ク虞アルノミナラス、爾他ノ地域ヲ準備完了次第新國  
 家ニ編入スル際ノ法理的説明ニモ困難アリ、寧ロ主要地域ノ  
 準備完了次第全地域ニ且ツテ一齊ニ獨立宣言ヲ爲サシムルヲ

外務省

適當ト考フル次第ナリ。而シテ未タ準備完了セサル地域ニ付テハ一應之ヲ新國家ノ領域トスルモ、依然我方ノ軍政ヲ繼續シ、準備完了ヲ俟テ遂次之ヲ新國家ニ移管セントスル次第ナリ（第二項）。

第三項ニ所請獨立準備委員會ハ全地域ニ亘ル獨立準備ノタメノ委員會ナルモ新國家ノ中心ハ結局「ジャワ」ニシテ、又現在準備進捗状況モ「ジャワ」カ最も進ミ居ルヲ以テ、便宜上獨立準備委員會ハ之ヲ「ジャワ」ニ設ケントスルモノナリ。勿論「ジャワ」以外ノ地域ニ於テモ右獨立準備委員會ノ準備進捗状況ニ呼應シテ獨立準備ヲ促進スヘキコトハ當然ナリ。又「ジャワ」ニ設立セラルヘキ獨立準備委員會ハ全地域ノ獨立ヲ準備スルモノナルヲ以テ當然各地域ヨリノ代表者ノ参加ヲ豫想スルモノナル處、或ハ現下ノ交通状況ヨリシテ東印度各地ヨリ代表者ヲ「ジャワ」ニ派遣スルコトハ困難ナリトモ

外務省

S 1.7.0.0 - 56

42

思考セラルル處、右ノ如キ場合ニ於テハ「ジャワ」ニハ東印度各地ノ代表的人物居住スルヲ以テ之等ヲシテ代理セシムルコトヲ考慮シ得ヘシ。

曰要領三、ニ付

新國家獨立ノ時期ハ方針ニモ明示シアル通り可及的之ヲ速クナラシメ度キ所存ニシテ現地ニ於ケル準備ノ都合ハアルヘキモ戦局ノ状況竝ニ國際情勢ニ鑑ミ遅クモ今年秋ニハ實現セシムル必要アリト認メ居レリ。而レトモ急速度ニ展開スル國際政局ニ對處スル爲ニハ獨立ノ豫定時期ヲ速ニ概定シ新國家ノ領域タルヘキ地域ト共ニ之ヲ發表スルコト適當ニシテ尙本件發表ヲ我方ニ於テ之ヲ爲サス、獨立準備委員會ヲシテ爲サシムルコトトセル趣旨ハ本件新國家ノ獨立カ我方ノ指導乃至示唆ニ基クモノトノ形ヲ執ラス固ク迄モ東印度民族ノ目的的發意ニ基クモノナリトノ自然發生的形ヲ取ラシムルヲ適當トス

外務省

S 1.7.0.0 - 56

43

ルニ出ツルモノナリ。

四要領四、ニ付

本項モ前項ト同ジク新國家ノ獨立ヲ東印度民族ノ自發的發意ニ基クモノトスル趣旨ニ出ツルモノニシテ「民意ニ依リ之ヲ定ム」トハ具體的ニハ獨立準備委員會ヲシテ之ヲ決定セシムルコトニ依リ達セラルルモノト考ヘ居レリ

(終)

外務省

S 1.7.0.0-56

44

最高戰爭指導會議決定第二十七號

昭和二十年七月十七日

東印度獨立措置ニ關スル件

第一、方針

大東亞戰爭完遂ニ資スル爲帝國ハ可及的速カニ東印度ノ獨立ヲ容認ス、之カ爲直チニ獨立準備ヲ促進強化スルモノトス

第二、要領

- 一、獨立セシムベキ地域ハ舊領東印度トス
  - 二、全地域ニ亘リ獨立準備ヲ推進シ主要地域ノ準備完了次第全地域ニ亘リ新國家ノ獨立ヲ宣言セシム但シ準備完了セザル地域ノ施政ニ關シテハ準備進捗ノ狀況ニ應ジ逐次之ヲ新國家ノ管轄ニ移行セシムル如ク措置ス
- 之カ爲速カニ「ジャワ」ニ獨立準備委員會ヲ組織シテ獨立實施ニ必要ナル諸般ノ事項ヲ準備セシム

外務省

S 1.7.0.0-56

45

三、獨立ノ豫定期ハ成ル可ク速カニ之ヲ概定シ新國家ノ領域タルベキ地域ト共ニ獨立準備委員會ヨリ之ヲ發表ス  
四、新獨立國ノ國体、政体、國名、國民ノ範圍等ニ關シテハ民意ニ依リ之ヲ定ム  
五、獨立ニ關スル施策ヲ進ジ住民ノ民族意識ノ昂揚ニ努メ且戰爭遂行ニ寄與セシムルヲ主眼トシ作戰、戰備上ノ支障ハ極力之ヲ防止スル如ク措置ス  
六、本施策ノ現地ニ於ケル實行ハ一切之ヲ現地軍ニ一任ス

外務省

S 1.7.0.0 - 56

46

REEL No. A-1218

アジア歴史資料センター

極科

第二次世界大戦中ニ於ケル東印度ノ統治及帰属決定ニ関スル経緯  
 一 亦ニ次世界大戦勃發前蘭印ヲ含ム南洋占領地域ノ統治帰属ノ問題ハ  
 統帥部及政府内部ニ於テ種々研究サルトモアリタルモ外務省ハ当初  
 ヲリ蘭印独立ヲ重要視セリ蘭印上陸作戰開始直前南洋軍總司令  
 部ハ作戰及占領後ノ施政ヲ容易ナラシメンガ爲「サイゴン」及「バン  
 コック」ノ「ラジオ」ヲ利用シ「インドネシア」民族自主ノ宣傳ヲ  
 行ヒタルガ今時期ニ於テ、和蘭ハ流行刑中ナリシ「インドネシア」民  
 族運動指導者「スカル」及「ハッタ」ノ両氏ヲ「シヤバ」へ送  
 還シ右ニ対シテ「インドネシア」國民軍ヲ組織シテ日本軍ニ抵  
 抗スヘキコトヲ從愿シ其代償トシテ東印度地域ニ独立ヲ許シ答  
 へレトナレタルモ両氏ハシテ拒絶セル經濟緯アリタルモノ如シ日本  
 軍ノ蘭印占領後現地軍當局ハ後ニ独立聲明ノ行ハレタル  
 「ビルマ」「フィリピン」ニ於ケルト全様之等民族主義者ヲ先

外務省

2.

頭ニ至リ「シヤバ」奉公會其他原住民ノ対日協力組織ヲ設立シビルト共ニ  
 民族主義的傾向ヲ強化スルカ如キ方向へ施政ヲ押進ムルトモアリタルガ  
 當時「シガポール」ニ在リタル南方軍總司令部ハ逆ニシテ抑圧セ  
 ントスルノ方針ヲ持シ中央ニ於テモ亦戰爭遂行ノ爲ノ資源獲得  
 ニハシテ直轄領トシテ徹底セル政策ヲ採用スルノ外ニテ獨立許容等  
 ノ民族解放政策ハシテ阻害スヘイトノ理由ニテ統帥部ハ東印度獨  
 立ニ強硬ナル反ヲ主張セリ其結果昭和十八年一月四日大本營政府運  
 輸會議決定占領地帰属腹案ハ「ビルマ」「フィリピン」ノミ、獨  
 立ヲ規定シ其他ニ関シテハ追テ定ムトナレタルガ次テ今年五月三  
 十一日御前會議決定ハ東印度地域ヲ南洋占領地ニ編入スヘキコトヲ  
 決定シ原住民ノ民度ニ應ジテ政治參與ヲ認ムルカ如キ方策ヲ取ル  
 ト共ニ聯合占領宣傳ニ乗セラレサル様本帰属決定ヲ發表セサル  
 ル事トセリ 本決定ニ際シ東條總理大臣公寧ニ獨立論ニ傾キ居

外務省

リ外務省又独立論を案ラ主張セルカ統帥部公明述ノ如ク強硬ナル反對論ヲ持シ又一部ニ一度独立ヲ許容セバ帝曰トシテハ信義トシテ敢ク違ヒテ遵守重セルヲ得ス將來交渉平和等五慮ハル場合困難ナル地位ニ立ツヘキヲ以テ現状儘ラ可トスヘシト見解モアリテ遂ニ領土編入ノ決定ヲ見タル次第ナリ

ニ本決定ニ対シ現地軍當局ハ頗ル不満ナリモ積極的ニ反對意見ヲ具申スルニ至ラズ又大東亞會議直後來訪セル「セケルノ」氏ハ東條總理大臣ニ対シ東印度地域ニ対スル獨立許容ヲ懇請セルモ東條總理大臣ハ何等確答ヲ與フルコトナラシテ會見ヲ終リタルヲ以テ「スカルノ」氏ハ多ク失望ヲ抱キ「シヤバ」へ帰還セリ其後「シヤバ」軍政最高顧問タリシ林司政長官ハ現地軍最高指揮官トシ諒解ノ下ニ上奏シ東印度獨立論ヲ持シテ關係方面ノ説得ニ努ムル旨アリ重光外務大臣ハ之ヲ支持

外務省

シテ前記決定變更ノ努力ヲナシタルカ小磯内閣成立ト共ニ東印度獨立論ハ漸ク力化スルニ至レリ

即小磯内閣最初ノ戦争指導會議ニ於テ「今後採ルヘキ戦争指導ノ方策」中ノ一項ニ於テ次期議會ニ於テ東印度獨立問題ニ聲明ヲナスコトニ決定ヲ見ルカ其ノ経緯ヲ見ルニ當時太平洋正面ニ於テハ「マリヤナ」ノ防禦線崩壊シテ米日ノ攻勢力急速化シ、アリタル際ニテ新内閣トシテハ大東亞結集上何等カ新ナル政略上ノキヲ打タルヲ得サル情勢ニマリタル次第ニシテ外務省カ獨立論ヲ主張セルハ云フ迄モナキトコロナルカ陸軍中興元亦陸軍ノ軍政地域タリシ「シヤバ」ニ「スマトラ」ニ於ケル民族意識ノ昂揚著シトモナリ獨立問題ヲ不明確ナル状態ニ放置シ、原住民ノ協カヲ確保スルコト漸ク困難トナリ居ルヲ以テ現地軍當局ノ要請ヲ容レ獨立論ニ賛意ヲ表スルニ至レリ

外務省

b.

他方海軍側モ「フィリピン」失陥後ハ南方放棄ハ既ニ現ニ決  
シ来リタルヲ以テ從來ノ反対論ヲ固持スルノ理由ヲ喪失シ昭和  
二十年、初頭ヨリ東印度独立問題ニ関スル外陸海ノ主  
張ハ漸次統一セラルニ至レリ依テ三者關係官ノ間ニ付次、討議  
ヲ經タル結果七月十七日最高指導會議ニ於テ「帝口ハ可及的東  
カニ東印度ノ独立ヲ容認スニカカシ直チニ独立準備ヲ促進  
強化スルモノトス」トノ決定ヲ見タルモ(附居三)及(附居四)  
其後一十月弱ニシテ帝口ノ降伏トリタルヲ以テ之ヲカ案施ラ見ス  
レテ終レリ

S 1.7.0.0 - 56

52

外務省

5.

シ共海軍側ハ依然トシテ強硬ナル反対意見ヲ持シ独立施策  
ノ押進ニ対シ海軍軍政地域ニ関スル限リ(全面的留保ヲナシタ  
ルヲ以テ(附居一)單ニ議會ニ於テ小磯總理大臣ヨリ將來  
東印度地域ノ独立ニ関シ支援ヲナス(キ日ノ聲明行ハレタルニ止リ  
(附居二)独立ニ関スル何等具體的方策ノ決定ヲ見ルニ至ラズ  
三、其後我軍ハ更ニ悪化シ南方地域ト、海上ニ至通ハ事實上杜  
絶状態トナリタルヲ以テ現地ニ於ケル軍自活ノ爲、經濟的要  
求ハ増大シ「ジャバ」「スマトラ」ニ於テハ抽象的ナル独立  
聲明ノミヲ以テ、レテハ原住民ノ人心把握ハ著シク困難トナレリ  
現地軍當局ハ日軍ニ原住民政治參與ノ方針ニ基キ「ジャバ  
ニ中央參議院ヲ設置セルモ右軍ナル施政ニ対スル諮問機  
関タルニ過キカリ」ヲ以テ独立準備ノ爲、具體的方策ノ  
決定ハ焦眉ノ問題トナレリ

S 1.7.0.0 - 56 .

51

外務省



尚全地域ヲ同時ニ独立セシムベキヤ逐次独立セシムヘキヤハ當時ノ状況ニ依リテ定ム

5. 「ジャワ」ニ於テハ住民ノ創意ヲ尊重シツ、左記ニ準テ準備シテ措置ス

イ、帝曰政府ノ声明ニ即應シ速ニシカ趣ヒ目ノ徹底ヲ図ル

ロ、軍政ノ現状ハ急激ナル変化ヲ避ケルモ住民ノ政治參與ヲ更ニ強化擴大シ且ツ其ノ政治的訓練ヲ行フ

ハ、成ルヘク速ニ現地住民ノ行フ独立ニ必要ナル事項ノ調査研究ヲ認ム

ニ、從來禁止シタル「インドネシヤ」歌及「インドネシヤ」旗ノ使用ヲ許容ス

6. 他ノ各地域ハ其ノ實情ニ即應シ爲シ得ル限り前項ニ準シタル措置ヲ採ルモトス（海軍、留保）

附屬一 昭和一九・九・二 東印度獨立施策ニ関スル件（關係省主務者案）

一、方針

將來東印度ヲ獨立セシムルヒヨラ声明シ以テ民心把握ニ資スルト共ニ大東亞政策ヲ中心外ニ闡明ス

二、要領

1. 將來東印度ヲ獨立セシムベキヒ日臨時議會ニ於テ吉野ス

2. 獨立セシムベキ地域ハ舊蘭領印度（「ニューギニア」ヲ除ク）ト豫定ス（海軍留保）

3. 獨立ノ形態及帝曰トノ關係ハ別ニ定ム

但シ帝曰ノ要請ヲ十分達成スル如ク措置ス

4. 獨立ノ時期ハ住民ノ政治能力向上ノ状況等ヲ勘案シ別ニ定ムルモ過早ナル獨立ヲ實施ハシテ避ケ

附屬ニ總理大臣議會聲明

次ニ東印度等ニ於キマレテハ、帝國ハ昨年原住民ノ念願ニ  
 基キ、原住民ノ政治參與ニ關スル措置ヲ採リテ參リタリ  
 デアリマスルガ、此ノ間此等各地ノ原住民ハ、克ク帝國ノ良  
 意ヲ解シ、終始一貫、大東亞戰爭完遂ノ爲、多大ノ  
 努力ヲ統テテ參リタリデアリマレテ、現地軍政ニ對スル協力  
 亦洵ニ見ルベキモノガアリマス。此ノ實狀ニ鑑ミマレテ、帝  
 國ハ東印度民族永遠ノ福祉ヲ確保スル爲、独立ノ準備  
 ヲ進メ、將來其ノ独立ヲ認メントスルモノナルコトヲ、茲ニエ  
 明スルモノデアリマス。

外務省

「東印友誼」獨立運動ニ關スル件」外務大臣說明資料

昭和二十七年七月十七日

一、東印友誼ニ於テハ南領時代ヨリ強烈ナル獨立運動アリ、「インドネシア」  
 人ノ爲ノ「インドネシア」ハ彼等獨立運動者ノ熱烈ナル希望ナルニテ、  
 大東亞戰爭勃發シ我軍ノ東印友誼戰定本ルヤ之等先覺者  
 ハ何レモ獨立ノ好稱ヲレリト、形勢ノ下ニ我々ニ全面的協カヲ  
 爲シ、或ハ中央各議院派復トシテ、或ハ各州地方機關ノ友誼  
 又ハ派員トシテ、活動シテ、本年果見ル可キモノアリ、他國一昨  
 年十一月大東亞共同宣言ノ發表アリ、大東亞各國ノ自主獨立  
 ヲ尊重スル帝國ノ大方針宣明セラレ、同時ニ「ビルマ」「フィリピン」  
 ノ獨立、自由印友假政府ノ成立アルヤ、東印友誼ニ於テモ獨立運  
 動者ノ希望ハ一層促進セラレタル次第ナルカ、帝國トシテモ大  
 東亞宣言ノ趣旨ヲ貫徹シ、又東印友誼民ノ我々ニ對スル協力

外務省

ト形待ニ報ニル為ニモ、東印支ノ独立問題ニ関シ何等カノ意  
 思表示ヲ為スコト適当ト思科セラル、ニ至レリ。依テ亦内閣ニ於  
 テハ去去年九月五日最前高裁ヲ協定シテ議ニ付議シタル上、九月  
 七日才八十五臨時議旨ノ施設演説ニ於テハ、併チ亦總理ヨリ、  
 「帝國ハ東印支民族永久ノ福祉ヲ確保スルヲメニ將來ニ於  
 ノ獨立ヲ認メトスルモノナル旨聲明セシ、以テ本問題ニ對スル  
 帝國ノ意向ヲ明白ナラシメタリ。尤モ九月五日ノ最前高裁ヲ  
 協定シ於テハ右聲明ヲ議旨ニ於テ為スコトヲ決定セルノミ  
 ニシテ、獨立ヲ許スルコト地域ニ関シテハ「ジャワ」及「スマトラ」ニ  
 付テハ同敷ナクモ東印支ノ地域ニ付テハ明白ナル決定ヲ見ス、唯  
 徑テ禁止シ居リタル「インドネシア」及「インドネシア」横ノ  
 使用ヲ許可シ、又住民ノ政治参与ヲ強化スルニ於テは住民  
 ラシテ獨立ニ必要ナル事項、調査研究ヲ為サシムルコトナレリ。

外務省

二、右帝國政府ノ聲明ニ呼應シ、「ジャワ」ニ於テハ獨立調査委員  
 會ヲ設立セラレ、「スマトラ」セ「ス」等ノ地域ニ於テモ現地民  
 民政治参与強化ノ務盡力執ラレ、所要ノ準備進捗中ナ  
 ルカ、去去年九月七日ノ聲明ニハ唯「將來ニ於テ獨立ヲ認メト  
 スルモノナル」旨述べアルノミニテ、現地民ノ要求ヲ示シテアル事  
 相立ラ約キ下ラ之カ實現ヲ長ク不安定ノ状態ニ於テハ  
 帝國ノ滿意ニ付、獨立ヲ認メシムルノ虞アリトセズ、殊ニ敵ノ  
 反動カ既ニ東印支ノ一角ニ及ヒツ、アル今日現地住民ノ對日  
 感情カ尤モ積極化スル必由ヨリ云フモ、此ノ際、國家上ノ聲  
 明ヲ更ニ具體化シ、獨立ノ時期ヲ決定シ之ヲ、印外ニ発表シ  
 以テ、東印支自主完成ニ對スル帝國ノ真摯ナル意向ヲ  
 宣明スルノ要アリ、敍上ノ見地ヨリ、今回別案ノ如キ決定ヲ  
 為サントスル次第ナリ。

外務省

三、次ニ決定案ニ付テ於テ議決スヘシ。

(一) 要領一、ニ付、

東印支ノ民族ハ各地理ニ依リ一様ナラス、是モ民族ニ異ク其  
以上モ独立ノ資格ヲ具備スルハ勿論「ジャワ」ニシテ其餘  
ノ地理ハ必スシモ互ニ独立ノ資格ヲ有スルトハ認め得ザルモノ  
アリ、況テ其ノ際先「ジャワ」ノミニ独立ヲ許容シ他ノ地  
域ハ更ニ其ノ實態ノ完備ヲ俟テ独立セシムヘシトノ論モ  
アリ得ヘキ筈、徑来東印支ノ独立ヲ首唱シ來レル所獨犯  
立運動者ハ各ニ南領東印支ヲ一併トシテ考ヘ居リ之ヲ  
一併トシテ独立セシメント要望シ、アルモノニシテ、以、際  
「ジャワ」ノミヲ抑着シテ独立セシムルコトハ彼等ヲ失望セシメ  
切角ノ效果ヲ軍威スルノミナラス或ハ帝國カチ筋ノ地理  
ニ付何等カ野心アルニ犯スマトノ疑念ヲ生セシムルノ懼ナシト

外務省

セス、依テ其ノ際独立セシムルニ於テ東印支ノ全部ナル旨ヲ明ニスル  
ヲ可トスル次ナリ。又本項ハ独立セシムルニ於テ東印支ノ全部  
莫領「マライ」及比「ボルネオ」ヲ含むコトヲ意味スルモノナル  
筈、之等ノ地理ハ地理的ニハ同領ト近接スルモ徑来ノフ  
史的傳統ニ於テハ全然別個ノ存在ナリシモノニシテ之ヲ同領  
トシテ一併トシテ独立セシムルコトハ不適宜且不必要ナリト思フ  
テ之ヲ除外セル次ナリ。

(二) 要領二、ニ付、

第一項ハ主として東印支ノ「ジャワ」「スマタラ」等ノ独立準備定  
了セル際ハ独立セシムルニ於テ東印支ノ全部ナル同領トシテ  
東印支ノ全部ノ独立ヲ宣言セシムルコトヲ意味スルモノ  
ナリ。東印支ノ準備定了セル地域ヨリ先ツ独立セシムル他ノ地  
域ニ付テハ其ノ準備定了スルヲ俟テ逐次之ヲ新國トスルニ

外務省

加セシムル方法モ考ヘ得(予モ、右ノ如キ方法ハ亦亦同國即令  
 部ヲ一併トシテ考フル所賜「インドネシア」独立運動者ノ後  
 解リ報リ度アルノミナラス、右他ノ地域ヲ併テ備完了次才  
 新國家ニ編入スル際ノ法理的説明ニモ困難アリ、寧ろ  
 主要地域ノ準備完了次才全地域ニ亘リテ一新ニ之ヲ  
 宣言ヲ為サシムルヲ適當ト考フル次才ナリ。而シテ未タ併  
 備完了セサル地域ニ付テハ一應之ヲ新國家ノ領域トスルモ  
 依然然才ノ軍政ヲ繼續シ、併テ備完了ヲ俟テ逐次之ヲ新  
 國家ニ移管セシムル次才ナリ(才ニ項)。  
 才三項ニ所屬独立準備多量有ハ全地域ニ亘ル独立併  
 備ノタメノ多量有ナルモ新島ノ中心ハ強國「ジャワ」ニシテ  
 又現在併テ備進捗状況モ「ジャワ」カ最も進ミ居ルヲ以テ、  
 便宜上独立準備多量有ハ之ヲ「ジャワ」ニ設ケントスルモ

外務省

ノナリ。勿論「ジャワ」以外ノ地域ニ於テモ右独立準備多  
 量有ノ準備進捗状況ニ考慮シテ独立準備ヲ促進スル  
 キコトハ當然ナリ。又「ジャワ」ニ設ケラルヘテ独立準備多  
 量有ハ全地域ノ独立ヲ準備スルモノナルヲ以テ當然各地  
 域ヨリノ代表者ノ参加ヲ予想スルモノナルヲ、或ハ現下ノ  
 交通状況ヨリシテ東印各地ヨリ代表者ヲ「ジャワ」ニ派  
 遣スルコトハ困難ナリトモ思考セラル、右ノ如キ場合  
 ニ於テハ「ジャワ」ニハ東印各地ノ代表的人物居住スルヲ  
 以テ之等ヲシテ代理セシムルコトヲ考慮シ得ヘシ。  
 同要領三、ニ付、  
 新國家独立ノ時勢ハ方針ニモ以テシアル通り可及的之ヲ策  
 カナラシメ交キ不存ニシテ現地ニ於ケル準備ノ都合ハアルハ  
 才モ我々ノ状況ニ國際情勢ニ鑑ミ速クモ今年秋ニハ

外務省

實現セシムル必要アリト認メ居レリ。而レトモ急遽ニ展  
 開スル國際政向ニ對スル爲ニハ和立ノ豫定時形ヲ求  
 ニ概定シ新國家ノ領域タルハ干地既ト共ニ之ヲ發表ス  
 ルコト適當ニシテ尙本件發表ヲ裁方ニ待テ之ヲ爲サス。  
 和立準備尙尙有ラシテ尙サシムルコト、セル極力本件  
 新國家ノ和立カ方ヲ指導乃至示唆ニ基クモノトノ  
 形ヲ執ラズ飽ク迄モ和立民族ノ自發的發意ニ  
 基クモノナリトノ自然發生の形ヲ取ラシムルヲ適當トスル  
 ニ出ツルモノナリ。

外務省

8 1.7.0.0 - 56 63

之ヲ決定セシムルコトニ依リテ(セラル)モノト考(居)レリ  
 (終)

外務省

8 1.7.0.0 - 56 64

最高裁會指導會議決定第二十七号

昭和二十一年七月十七日

東印及紐立務並ニ関スル件

第一、方針

大東亞秩序完成ニ資スル為帝國ハ所及の原力ニ東印及ノ  
獨立ヲ承認ス之カ為直チニ獨立準備ヲ促進強化スルモノトス

第二、要領

一、紐立セルニ干地既ハ回南領東印及トス

二、全地域ニ直リ獨立準備ヲ推進シ主要地域ノ紐立準備完了

次第全地域ニ直リ新國家ノ獨立ヲ宣言セルム但シ準備完了

了セサル地域ノ施政ニ関シテハ準備進行状況ニ應ジテ逐

次之ヲ新國家ノ發給ニ移リセルム如ク務メテス

之カ為速チニ「ジャワ」ニ獨立準備高負ヲ担ジテ

外務省

S 1.7.0.0-55

65

五、實施ニ必要ナル諸般ノ事項ヲ準備セシム

三、獨立ノ予定時期ハ年々可ク原力ニ之ヲ概定シ新國家ノ

領土タルキ地域ト共ニ獨立準備高負ヲコリ之ヲ發表ス

四、新獨立國ノ國体、政体、國名、國民ノ範圍等ニ関シテハ

民意ニ依リ之ヲ定ム

五、獨立ニ関スル施策ヲ通シ國民ノ民衆意識ヲ高揚シ努力

ヲ具致ス蓋シニ策ヲ定ムルヲ主眼トシ作戦、教養上ノ

互障ハ極力之ヲ防止スル如ク務メテス

六、本施策ノ現地ニ於ケル実行ハ一切之ヲ現地軍ニ一任ス

外務省

S 1.7.0.0-56

66

ナシ全時ニ聯合國側ノ大西洋憲章ニ盛ラレタル思想ト同系列ノ施策ヲ推進スルコトニ依リ和平ノ機会ヲ獲ハントセルモノナルガ戦争初期ニ於テハ統帥部ノ主張壓倒的ニシテ領土編入ノ決定ヲ見タルモ戦後局ノ推移ト共ニ先ニ陸軍次ヲ海軍カ獨立論ニ耳ヲ傾ケルニ至リ終戦直前ニ於テ獨立許容ノ決定ヲ見タル次第ナリ。次ニ戦争初期ニ獨立聲明ノ行ハレタル「ビルマ」及「フィリピン」トノ關係ヲ見ルニ「ビルマ」ノ場合ハ原住民ガ各々方作戰ニ積極的ニ協力セルコト及其後展開セルラレタル対印施策トノ關係ニ於テ先ツ「ビルマ」ニ獨立ヲ與フヘイトノ考慮アリタルコト「フィリピン」ニ關シテハ戦前米國ガ既ニ獨立ヲ約束シ居リタルコト及太平洋正面ニ於ケル大反攻ノ前ニ人心把握ノ施策ヲ要求セラレタルコト等戰争指導ヲ全般ニ關聯セル行種事情アリタルモ東印度ニ關シテハ此種獨立施策ヲ急務トスルモ事情ナレトノ判断行ハレタルノミ

外務省

第二次世界大戦中ニ於ケル東印度ノ統治及帰属決定ニ關スル経緯概要  
 太平洋戦争  
 第二次世界大戦中ニ於ケル東印度ノ統治及帰属決定ノ問題ハ極メテ複雑ナル経緯ヲ辿リタルガ右ハ統帥部及政府内部ニ相對立セル見解が存在シ未解決ノ儘終戦直前迄持越サレタルニ基クモノナリ  
 即チ統帥部ハ戦争遂行ノ爲ニ南方特ニ東印度資源ノ徹底的利用ヲ必要トシ獨立政府ノ樹立等ハ作戰的要求ニ即應スヘキ諸施策ヲ遂行ヲ阻害スルモ異アルヲ以テ東印度ハ帝國領土ニ編入シ帝國ノ高度國防國家トシテノ完成ニ資セルムヘイトナレシニ反シテ外務省ハ可及的速カク東印度獨立ヲ主張セルカ右ハ大東亞宣言ニ表現セラレタルカ如ク第二次世界大戦ノ性格ハ規定レテ世界被壓迫民族ヲ東亞諸民族ノ解放ニアリト

外務省



ナラス地理的範圍ヲ如何ニスヘキヤノ問題（「ニューギニヤ」ヲ含マレル  
 ヤ否ヤ北「ボルネオ」「マレー」トノ關係如何等）アリ更ニ  
 各地域ノ民度ニ著シキ差異アル上民度高キ地域即チ「ジャバ」  
 「スマトラ」「ハ陸軍 軍政地域ニ屬シ民度低キ地域即「セレス」  
 南「ボルネオ」ガ海軍 軍政地域ナリトハ陸海ノ一般の對立ヲ  
 背景トシテ獨立問題カ迂餘曲節ヲ辿リタル一因ナリト云ヒ得ヘク  
 右ニ關係シ「ジャバ」ニ於ケル民族意識ノ昂揚ハ獨立問題  
 ニ關スル現地陸軍當局ノ態度ニ及映シ軍中央ノ方針亦及ス  
 ルカ如キ傾向ヲ示セル事アリタルハ別ニ詳述ノ通ナリ

外務省

S 1.7.0.0-56

69

第二次世界大戦中ニ於ケル東印度ノ統治及帰属決定ニ  
関スル経緯概要

第二次世界大戦中ニ於ケル東印度ノ統治及帰属決定ノ問題ハ種  
々複雑ナル経緯ヲ辿リタルガ若ハ統帥部及政府内部ニ相対立セル見  
解が存在シ未解決ノ儘終戦直前迄持越サレタルニ基クモナリ  
即チ統帥部ハ戦争遂行ノ爲ニ南方特ニ東印度資源ノ徹底  
的利用ヲ必要トシ獨立政府ノ樹立等ハ作戰的要素ニ即應スヘキ諸  
施策ノ遂行ヲ阻害スル上莫アルヲ以テ東印度ハ帝國領土ニ編入  
シ帝國ノ高度國防國家トシテノ完成ニ資セルヘトナレシ  
ニ及レテ外務省ハ可及的速カク東印度獨立ヲ主張セルカ右  
ハ大東亞宣言ニ表現セラレタルカ如ク第二次世界大戦ノ性格ヲ  
規定シテ世界被壓迫民族特ニ東亞諸民族ノ解放ニアリト

外務省

S 1.7.0.0 - 56

70

2.

ナシ全時ニ聯合國側ノ大西洋憲章ニ感テタル思想ト同一系列ノ施策  
ヲ押進スルコトニ依リ和平ノ機会ヲ祖ハントセルモノナルガ戦争初期  
ニ於テハ統帥部ノ主張壓倒的ニテ領土編入ノ決定ヲ見タル  
モ戦極高ノ推移ト共ニ先ッ陸軍次ヲ海軍カ獨立論ニ耳ヲ傾  
ケルニ至リ終戦直前ニ於テ獨立許容ノ決定ヲ見タル次第ナリ  
次ニ戦争初期ニ獨立聲明ノ行ハレタル「ビルマ」及「フィリピン」  
トノ關係ヲ見ルニ「ビルマ」ノ場合ハ原住民ガ吾方作戰ニ積極的  
ニ協力セルコト及其後展開セルラレタル対印施策トノ關係ニ於テ  
先ッ「ビルマ」ニ獨立ヲ與フヘトノ考慮アリタルコト「フィリピン」  
ニ関シテハ戦前米國ガ既ニ獨立ヲ約束シ居リタルコト及太平洋正面ニ  
於ケル大反攻ヲ前ニ人心把握ノ施策ヲ要求セラレタルコト等戰  
争指導上全般ニ關係セル特殊事情アリタルカ東印度ニ関シテハ  
此ノ種獨立施策ヲ急務トスヘキ事情ナレトノ判断行ハレタルノミ

外務省

S 1.7.0.0 - 56

71

ナラス地理的範圍ヲ如何ニスヘキヤノ問題（「ニューギニヤ」ヲ含マシムル  
 ヲ否ヤ此「ボルネオ」「マレー」トノ關係如何等）アリ更ニ  
 各地域ノ民度ニ著シキ差異アル上民度高キ地域即チ「ジャバ」  
 「スマトラ」ハ陸軍 軍政地域ニ屬シ民度低キ地域即「セレベス」  
 南「ボルネオ」ガ海軍 軍政地域ナリニトハ陸海ノ一般の對立ヲ  
 背影トシテ獨立問題カ迂餘曲節ヲ辿リタル一因ナリト云ヒ得ヘク  
 右ニ關係シ「ジャバ」ニ於ケル民族意識ノ印揚ハ獨立問題  
 ニ關スル現地陸軍當局ノ態度ニ及映シ軍中央ノ方針ニ背反ス  
 ルカ如キ傾向ヲ示スセル事ニアリタルハ別ニ詳述ノ通ナリ

外務省